

令和2年4月28日

奥州市議会政務活動費収支報告書

奥州市議会議長 宛

議員氏名 中西 秀俊



令和元年度分の政務活動費の収支を次のとおり報告します。

1 収入

項目	金額	内訳
政務活動費	144,000円	@12,000円×12月
自己負担	73,090円	
合計	217,090円	

2 支出

項目	金額	内訳
研究研修費	8,000円	別紙のとおり
調査旅費	128,135円	別紙のとおり
資料作成費	円	
資料購入費	5,930円	別紙のとおり
広報費	75,025円	別紙のとおり
広聴費	円	
要請及び陳情活動費	円	
会議費	円	
人件費	円	
事務所費	円	
合計	217,090円	

令和01年度 政務活動費 支出内訳表

議員名	中西 秀俊
-----	-------

項目	整理番号	金額	内 訳
1	研究研修費		
	01-01	5,000	奥州市議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟 年会費
	01-02	3,000	市政調査会活動費負担金
	小 計	8,000	
2	調査旅費		
	02-01	79,360	奥和会行政視察旅費（兵庫県播磨科学公園都市、川西市、和歌山県田辺市）
	02-02	2,435	奥和会行政視察経費：秋津野ガルテン
	02-03	46,340	奥和会行政視察旅費（静岡県掛川市）
	小 計	128,135	
3	資料作成費		
	小 計	0	
4	資料購入費		
	04-01	3,180	「東経連月報」購読料（2019年4月～2020年3月）
	04-02	2,750	書籍代：議会改革への挑戦 会津若松市議会の軌跡
	小 計	5,930	
5	広報費		
	05-01	75,025	「奥和会だより」印刷代、郵送料
	小 計	75,025	
6	広聴費		
	小 計	0	
7	要請及び陳情活動費		
	小 計	0	
8	会議費		
	小 計	0	
9	人件費		
	小 計	0	
10	事務所費		
	小 計	0	
合 計		217,090	

政務活動費 支出整理票			整理番号	01 - 01
			支出整理日	令和 01 年 06 月 21 日
令和01年度	議員名	中西 秀俊	支出項目	研究研修費

金額	5,000	円
----	-------	---

使途： 奥州市議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟 年会費

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	年会費	R01-06-21	5,000		5,000
2					0
3					0
4					0
5					0
6					0
7					0
8					0
9					0
10					0
合 計			5,000	0	A 5,000
按分の内容				按分割合	B
按分後対象支出額 (A×B ((按分がない場合はA再掲)))					C 5,000

備考

領収書貼付欄 (貼りきれない等の場合は裏面又は別紙に貼付して差し支えないこと)

NO. 3

領 収 書 中 西 秀 俊 様

★ ¥5,000

但 奥州市議会国際リニアコライダー誘致推進議員連盟 年会費として
2019年6月21日 上記正に領収いたしました。

〒023-8501
岩手県奥州市水沢大手町1-1
TEL:0197-24-2111
奥州市議会国際リニアコライダー誘致推進
議員連盟
会 長 渡 辺 忠



内 訳	5,000円
税抜金額	5,000円
消費税額(%)	0円

収 入
印 紙

政務活動費 支出整理票			整理番号	01 - 02
			支出整理日	令和 01 年 06 月 28 日
令和01年度	議員名	中西 秀俊	支出項目	研究研修費

金額	3,000	円
----	-------	---

使途： 市政調査会活動費負担金

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	負担金	R01-06-28	3,000		3,000
2					0
3					0
4					0
5					0
6					0
7					0
8					0
9					0
10					0
合 計			3,000	0	A 3,000
按分の内容				按分割合	B
按分後対象支出額 (A × B (按分がない場合はA再掲))					C 3,000

備考	

領収書貼付欄 (貼りきれない等の場合は裏面又は別紙に貼付して差し支えないこと)

受 領 書

金 3, 0 0 0 円也

ただし、市政調査会活動費負担金 (@3,000×1人分) として、上記のとおり正に受領いたしました。

令和元年6月28日

中 西 秀 俊 様

奥州市議会市政調査会

会長 小野寺 重



政務活動費 支出整理票			整理番号	02 - 01
			支出整理日	令和 01 年 09 月 10 日
令和01年度	議員名	中西 秀俊	支出項目	調査旅費

金額	79,360	円
----	--------	---

使途：奥和会行政視察旅費（兵庫県播磨科学公園都市、川西市、和歌山県田辺市）
 視察日：令和元年8月7日（水）～9日（金）

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	J R代金	R01-09-10	48,700		48,700
2	貸切バス代金	R01-09-10	17,760		17,760
3	宿泊費（兵庫県姫路市）	R01-09-10	5,900		5,900
4	宿泊費（和歌山県田辺市）	R01-08-08	7,000		7,000
5					0
6					0
7					0
8					0
9					0
10					0
合 計			79,360	0	A 79,360
按分の内容				按分割合	B
按分後対象支出額（A×B（按分がない場合はA再掲））					C 79,360

備考

領収書貼付欄（貼りきれない等の場合は裏面又は別紙に貼付して差し支えないこと）

ALTIER HOTEL

アルティエホテル紀伊田辺 

〒646-0032 和歌山県田辺市下屋敷町1-77
TEL 0739-81-1111 FAX 0739-81-1112
<http://www.altierhotel.com> Eメール front@altierhotel.com

領 収 証

- ご芳名 中西 秀俊 様
- 人数 1名様
- ご宿泊日 2019年8月8日 ■ご宿泊数 1泊
- 金額 ¥7,000 -

但し、宿泊代と致しまして

2019年8月8日
担当者: 村上 太郎



 ALTIER HOTEL

令和元年 奥和会行政視察報告書 中西秀俊

日時：8月7日(水)

○ 播磨科学公園都市

調査内容① 公園都市の概要について

② 大型放射光施設及びX線自由電子レーザー施設の概要について

放射光とは、光速近くまで加速された電子が、その進行方向を磁石などによって変えられた際に発生する電波です。放射光は、物質の性質を原子・分子レベルで解明し、さらに化学反応などの超高速の動きを捉えてることができ、広範囲な分野の最先端研究に利用されています。

理化学研究所では、積極的利用を中心とした先駆的研究を推進しているほか、公園都市に展開されるリサーチコンプレックスに終結する国内外の研究者、国内外の大学及び国公立研究関係、産業界の研究機関などと多彩な研究協力を推進しています。経過として、

2005年に放射光科学研究センターを設置。

2006年に理研と共同でX線自由電子レーザー計画合同推進本部を設置。

2006年に先端大型研究施設の共用の促進に関する法律に。

2008年にセンター内3部門体制に組織改編に。

先端光源開発研究、利用技術開拓研究、利用システム研究

世界一小さいものが見えるX線レーザー ピコスコープ

- ・世界最短波長となるX線レーザーの発振に成功
- ・ビーム運転開始からわずか3ヶ月という短期間で成功
- ・性能をさらに向上させ、2011年度内に供用運転を開始

小さいものに興味を示します。夢があります。小さい世界には、宇宙と同じように、誰も解明していない謎が広がっています。

X線レーザーは、原子の動きを、一瞬のストロボでくっきり撮った写真を何枚も並べて、瞬時に起きる科学変化を観察することができる「夢の光」です。

基礎研究から応用開発まで幅広い分野で活用が見込まれており、創薬で重要な膜タンパク質の構造解析やナノテクノロジー分野などの研究が期待されます。

2006年度に国家基幹技術『閣議決定され、国家的目標と長期戦略を明確にして取り組むべき重要技術』「これまで実現不可能であった分析を可能にする技術と位置づけられ、広範囲な技術分野における貢献が期待されている」の一つとして選定され、日本の最先端テクノロジーを結集して5年間にわたって整備が行われてきました。2011年からビーム運転を開始し、運転開始からわずか3ヶ月という短期間で3波長のX線レーザーの発振に成功しました。

これまで、高強度、短波長のX線レーザーを安定に供給、利用するための調整運転を行い、国内外に開かれた施設として供用運転を開始してきました。

現状での課題

大型先端基盤施設は国の科学技術イノベーションを支える要であり、今後も

とも高い国際競争力を保つ必要があるが、財政事情を考えると欧米並みの資本投下を行うことは無理です。一方で運営費は、アメリカの対応する施設の運営費総額のほぼ半額です。同一サイトにある利点を最大限に生かすことによって、まだ効率化の余地は残っています。しかしこのためには、限定された資本投下の中で、競走力確保を効果的に担保するための方策を考える必要があります。効率化と高度化を同時進行させることによって競走力を高めつつ資本投下を減少させる方策を検討します。

- ・大型施設は建設費の10%の運営費を使っています。これに何らかの節減の余地はないのか？
- ・年間80億円の予算投下に対して、3億円程度の利用料収入があります。この増収は図れないのか？
- ・電力料金は今後も高騰が続けることが予想されます。ここに対処するためにはどうすればよいか？

現状と課題

産業の進展とともに、利用希望者は増大し、ビームタイム不足が目立っています。産業利用では、適切なタイミングでのビームタイム配分が重要であり、年2回の課題募集から年4回とすることによって、ターンオーバーを早くする試みはなされているものの、最適かどうかは検討の余地があります。

産業利用課題が増大している割には、有償利用が増えていないことも課題の一つであり、その原因を分析し、今後の有償利用拡大に向けて何かしらの方策を講ずるべきであるならば速やかに実行すべきであります。

日本の放射光科学全体にとっては望ましい方向であるが、更に日本全体として施設の役割分担を考えながら、産業利用を進めて行くことが重要であります。

日本全体での適正規模と適正配置を議論しながら、放射光施設の改廃と整備を進めていくべきです。

今後の方向

産業利用は産業界の役に立っているという認識は広がっており、利用希望者は増大しております。それに伴ってビームタイムの不足も深刻化しています。今後は産業界の利用ニーズを適切に複数施設に振り分けることによって、全体として最適化を図ることを進めることです。その際に、現状ではほとんど有効活用されていない施設もしっかりと参加することを考えるべきです。

産業利用は、産業界のより本質的な課題解決に資するために、従来のような各個撃破ではなく戦略的に進めるべきであります。

結びに、導かれる感想

- ・世界のトップレベルに戦っていく競争力を失いつつあり、できるだけ早期にアップグレードの道筋をつける必要があります。

- ・アップグレードにより大幅な運営費の低減の可能性があるが、以前に実行可能な効率化に向けての取り組みは多数考えられるので、その着実な推進を図る必要があります。
- ・アップグレードはそれ単体で考えるのではなく、わが国の放射光科学推進の全体計画の中で考えるものであります。
- ・放射光施設、もはや学術のための大型基盤施設を超えた存在であるが、一方で従来の産業利用から一步進んだ産業利用の取り組みが要請されています。
- ・本格的に世界一を目指すのであれば共用法の根幹によって再考する可能性を排除できません。
- ・わが国が立ち遅れていた検出器技術開発をわが国の特徴を生かした推進が必要です。

米国エネルギー省が管轄する大型基盤施設では、一つのチームによる観点でのレビューが複数の施設に対して行われていると聞きますが、わが国でもそのようなチームを立ち上げて大型施設全体での効率化を向上させ、生産性を向上させることができれば、大型基盤整備に対する国民の理解や支援を増進させることが容易となるでしょう。このような方策には長所ばかりではなく、もちろん短所もありますが、それらを勘案上で実施の是非の検討を行うことは十分に議論に値することだと思えます。

○兵庫県川西市 市立川西病院の改革について

調査内容 ①市立総合医療センターキセラ川西センター整備事業
②市立病院と民間病院の統合、指定管理者制度の導入

病 床：250床

診療科：内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、耳鼻いんこう科、眼科
泌尿器科、麻酔科、放射線科

特 徴：救急指定病院、緩和ケア

○『市立川西病院の整備に向けた考え方』について

市立川西病院は、昭和58年に移転されてから、北部地域の中核的病院として役割を果たしてきました。しかし、約30年を経過し、老朽化や病院機能の低下が課題となっています。

そこで、平成25年度から2カ年をかけて、市立川西病院あり方検討委員会が設置され報告書がまとめられました。

並行して新病院整備に係る基本構想策定が進められ、平成27年3月に国では、地域医療構想策定ガイドライン（厚生労働省）、新公立病院改革ガイドライン（総務省）が示されたことで、改めて新たな病院改革プランの策定となりました。その中で、市立川西病院の整備に向けた4つの考え方が示されました。

- ・ 位置：市立川西病院は市域北部での整備を基本として検討します。
- ・ 整備手法：川西病院は、建て替えにより整備することを基本とします。
- ・ 病院機能：川西病院は、一般急性期を基軸として病院機能を担う。
- ・ 規模：河西病院は、現在の許可病少数を維持するとともに維持するとともに、増床も視野に入れます。

今後の対応として、5年間で赤字解消を目指し平成32年着工と平成35年の開設を目指すとしており、医師数が回復する中、まずは赤字解消に向けた取り組みを進めていきます。

内科医師11名体制で診療していましたが、4月末に1名、6月末に2名、8月末に1名の退職のため時間外の救急患者の受け入れを制限するといえます。

耳鼻いんこう科は7月から常勤医師が不在になるため月・水・金の午前のみ非常勤医師での対応になるといえます。

泌尿器は7月から常勤医師1名になります。市長名で「ご理解頂きますように」と。理解などできるはずがないと。危惧していたことが現実になっているといえます。つい先週、議会最終日に議員協議会の場で「病院の経営戦略のための理事が7月1日付けで勤務する」紹介され、その時には何の報告もない。

川西病院の地理的に周辺に病院がないなど地域の特性や必要性は全く語られず「赤字をなくす」ことばかりが語られた理事でした。

この間「もともと小児科・産婦人科・救急医療科など赤字部門があたり前の自治体病院」の責任を無視して、「公立病院は、赤字なので、けしからん・・・」と国の自治体病院つぶしがはじまりました。真の目的は、「国や自治体の責任放棄だ」といえます。

「医師不足・診療報酬の引き上げ・制度改悪による病院の追い出し、医療費

○秋津野ガルテン（和歌山県田辺市）

調査内容 ①秋津野ガルテンの概要について（体験型グリーンツーリズム施設 9
②地域づくりと6次化産業について

「都会にはない、香り高い農村文化を実現し、
活力と潤いのある郷土を作ろう」

という理念と目標を掲げて上秋津の主な団体が参加して地域づくりを協議する秋津野塾が結成され、平成8年には地域づくりの最高栄誉である『天皇杯』を受賞されました。

秋津野塾は町内会、愛郷会、公民館など30団体の参加で教育、福祉、防災、環境、産業、交流など様々な地域課題を議論して活動を続けます。

当法人の事業の種類

- ・高齢者の福祉の増進を目的とする事業
- ・児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業
- ・事故又は災害の防止を目的とする事業
- ・地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的とする事業
- ・国土の利用、整備又は保全を目的とする事業 地域社会の健全な発展を目的とする事業

田辺市上秋津地域に平成20年11月1日オープンした秋津野ガルテンは、大きなクスノキと旧上秋津小学校の校舎がシンボルとなっています。都市と農村地域の交流を楽しむため体験型グリーンツーリズム施設です。

地域の野菜をふんだんに使ったスローフードレストラン『みかん畑』ほか、宿泊、農業作業の体験や地元の柑橘を使った、お菓子づくり体験の『バレンシア畑』や、みかんの樹オーナー制度、市民農園など、ここ上秋津の魅力がふんだんに詰め込まれています。

・木造校舎は原風景：昭和28年建築。卒業生たちが自分たちの校舎の前で思い出を語る。そんなすばらしい置き土産を残してくれています。

・地元のお母さんたちがつくるレストラン：バイキングのランチを提供しています。約30種類のメニューから、その日の気分や食欲に合わせて思い思いの料理を皿に取ります。

・みんなで作ったガルテン：農業法人 株式会社秋津野は、全株主の半分以上、そして取締役員の3分の2以上が農業者です。出資者489名で資本金5180万円でソーシャルビジネスで地域の活性化のための事業を行う株式会社です。

・地域課題解決にソーシャルビジネス：いたずらに行政をあてにするのではなく、住民ができることは住民がします。そして必要に応じて行政の支援、協力を仰ぎます。多くの住民の総意は行政を動かす力になります。

今、農業を取り巻く環境は厳しく、廃園や遊休地の増加、担い手や労働者不足など、様々な問題があります。しかし、農業があるからこそ柔軟な雇用の創出が可能になるのではないかと。グリーンツーリズムはその解決法のひとつとし

て注目されています。ガルテンはドイツ語で庭です。単なる観光や地域振興のみならず、地域住民も集える地域の庭としての役割も担っています。
その運営には、ソーシャルビジネスの考えで運営を行っていました。

政務活動費 支出整理票			整理番号	02 - 02
			支出整理日	令和 01 年 08 月 09 日
令和01年度	議員名	中西 秀俊	支出項目	調査旅費

金額	2,435	円
----	-------	---

使途：奥和会行政視察経費：秋津野ガルテン

視察日：令和元年8月9日（金）

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	講演・研修費用	R01-08-09	17,000		17,000
2	資料代	R01-08-09	2,480		2,480
3					0
4					0
5					0
6					0
7					0
8					0
9					0
10					0
合計			19,480	0	A 19,480
按分の内容	8人			按分割合	B 1 / 8
按分後対象支出額 (A × B (按分がない場合はA再掲))					C 2,435

備考	領収書は奥和会共通経費整理票02-01に添付

領収書貼付欄（貼りきれない等の場合は裏面又は別紙に貼付して差し支えないこと）

政務活動費 支出整理票			整理番号	02 - 03
			支出整理日	令和 02 年 02 月 20 日
令和01年度	議員名	中西 秀俊	支出項目	調査旅費

金額	46,340	円
----	--------	---

使途：奥和会行政視察旅費（静岡県掛川市）

視察日：令和2年2月3日（月）～4日（火）

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	J R代金	R02-02-20	37,240		37,240
2	宿泊費	R02-02-20	9,100		9,100
3					0
4					0
5					0
6					0
7					0
8					0
9					0
10					0
合 計			46,340	0	A 46,340
按分の内容				按分割合	B
按分後対象支出額（A×B（按分がない場合はA再掲））					C 46,340

備考	

領収書貼付欄（貼りきれない等の場合は裏面又は別紙に貼付して差し支えないこと）

領 収 書		No 016370								
中西秀俊 様		令和 平成 〃 年 〃 月 〃 日								
取 入 印 紙	<table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td style="width: 20px; height: 20px;"> </td><td style="width: 20px; height: 20px;"> </td><td style="width: 20px; height: 20px;">7</td><td style="width: 20px; height: 20px;">4</td><td style="width: 20px; height: 20px;">6</td><td style="width: 20px; height: 20px;">3</td><td style="width: 20px; height: 20px;">4</td><td style="width: 20px; height: 20px;">0</td></tr></table>			7	4	6	3	4	0	
		7	4	6	3	4	0			
但し、御旅行代金として、上記正に領収いたしました。										
<p style="font-size: x-small;">◎近畿日本ツーリスト 特約店</p> 水沢ツーリストサービス株式会社 岩手県奥州市水沢区南町3番17号 TEL (0197) 24-7301 FAX (0197) 24-7312		<table border="1" style="width: 80px; height: 40px;"><tr><td style="text-align: center; font-size: x-small;">認印</td></tr></table>	認印							
認印										
A・B- <table border="1" style="display: inline-table;"><tr><td style="width: 20px; height: 20px;"> </td><td style="width: 20px; height: 20px;"> </td></tr></table>										

視 察 行 程

視 察 先 : 静岡県掛川市 (中東遠総合医療センター、希望の丘)

視察日程 : 令和 2年 2月 3日(月) ~ 2月 4日(火) 1泊2日

● 1日目 (2月 3日 (月))

※ 集合 : 水沢江刺駅 7時45分

7:59 10:16 10:56 12:39 12:40
水沢江刺駅-----東京駅-----掛川駅=====
(JRはやぶさ104号) (JRこだま649号) (徒歩)

12:50 13:30 14:00 16:00
昼食 (掛川市内) ===== 中東遠総合医療センター(視察)
うなぎ・和食処 新泉 (タクシー)
Tel. 0537-22-5521

16:15
=====ホテル (掛川市内)
(タクシー) <夕食>18:00~ 大手門うおそう
Tel. 0537-24-2636

中東遠総合医療センター : 経営戦略室 (Tel. 0537-21-5555)

宿泊先 : 掛川グランドホテル (Tel. 0537-23-3333)

奥和会行政視察調査報告書

日時：令和2年2月3日(月)～4日(火)
報告：中西秀俊

424
6年目～
医師の不足
民間病院を任せない
地域医療

- 1 調査内容：中東遠総合医療センターの概要について
 (①病院統合の背景と経緯 ②企業団の概要 ③病院機能や役割
 ④病院経営の状況 ⑤病院統合の成果と課題)

H19年以降の地域医療の現状

● 視察の目的

本市では、新公立病院改革プランを策定し、公立2病院の役割分担と安定的な医療提供ができる体制整備に取り組んでいる。全国初である2市の公立病院を統合した中東遠総合医療センターを視察することで、本市が抱える地域医療と公立病院の課題解決と今後のあり方を検証する事で、今後の奥州市の取り組みの参考になる。

15分
11:00～11:30
2分
4分
5分

② 中東遠総合医療センターの概要

中東遠総合医療センターは、静岡県南西部に位置し、掛川市(人口約115,000人)と袋井市(人口約86,000人)が病院企業団を設立し、掛川市内に平成25年5月に新設開院した中東遠地域の基幹病院である。
当病院は、地域住民にとって必要とされる質の高い医療を提供し、また地域の救急体制の核として充実した救急医療を提供するとともに、持続的かつ安定的な健全経営を目指している。

① 病院統合までの背景と経緯

- 旧袋井市立袋井病院(400床)は、昭和54年12月に新築オープン。
旧掛川市立総合病院(450床)は、昭和59年4月に移転新築オープンしたが、老朽化が進み医療の進歩に対応できない状況となってきた。

当直
10/17
17

- 平成17年以降、新臨床研修医制度に伴う都市部への医師偏在により、旧病院の医師不足が顕著となり、診療科縮小、病床閉鎖、経営悪化に伴う基準外繰り入れの増加などの課題が発生してきた。

医師と行政
はまる

- 平成18年に掛川市、袋井市の両市において、それぞれ病院のあり方検討委員会を設置し協議の結果「人口20万人規模でない病院を支えることができず」近隣病院との再編統合が望ましいとの結論に至った。

地域
西側 = 26名
東側 = 10名
26名

- 平成19年12月「掛川市、袋井市新病院建設協議会」を設立し、病院規模、建設場所、経営形態、建設時期、負担割合など協議を開始。→ 協議の促進

報告できる
和紙

- 市民からは「近くにあった市民病院がなくなる」「新たな病院建設は無駄遣い」「病院が遠くなる」等の意見を頂き、病院の困窮状態などの協議の内容を広報、新聞、テレビ等を通じて全て公表し市民に伝えた。

金沢市にアクト
H17 視察

「医療は人への愛」が
善くたずの
人材!

- ・経営形態は、現債務そして今まで頑張ってくれた職員をそのまま引き継ぐことができることを考慮し、地方公営企業法の全部適用である企業団公立病院の設立を決定した。

- ・病院の規模は、一般病床の掛川市450床、袋井市400床を統合し、急性期病床350床を含む500床の中東遠総合医療センターとし、建設費用を土地購入費、病院工事費、医療機器購入費を含む225億円とした。

- ・病院統合が決定後、市民意識は「とにかく早い開院を」「24時間、365日質の高い医療の提供を」「災害時にも市民の命を守れる病院に」と変化してきた。

- ・平成21年新病院建設に関する協定書を締結。

- ・平成21年7月新病院建設事務組合設立。平成22年から工事に着手し、3年後の平成25年5月に開院。

※ ③ 求められる機能と果たすべき役割について

- ・医療圏内の医療機関、行政、施設などとの連携強化と機能分担を推進し、限られた医療資源を集約する。

※ ④ 医療圏内の医療機関相互の連携強化と機能向上により「地域完結型」の医療提供体制を構築する。

④ 開院後の(平成25年5月)後の運営状況について

- ・平成27年救命救急センターに指定される。
- ・平成28年地域医療支援病院に承認される。
- ・平成29年医師数が開院時(93名)より33名増加し126名となる。

● 視察研修のまとめ、所見

- ・病院統合に至った要因は、医師不足、経営状況の悪化など当市の状況と類似する部分があり、今後における取り組みの参考になると感じました。

伊藤 決定
↓
7/26

- ・掛川市、袋井市の市民病院の閉鎖、統合病院の新設にあたり、市民、議会の理解、建設の場所の選定、医師派遣医局との調整、負担割合など多くの課題を乗り越えて建設に至った状況を視察し、改めて地域医療を取り巻く課題の多さを理解し、将来に向けた打開策の検討の必要性を感じました。

【参考、質問】

質問 2つあった病院を1つにしたことにより公共交通の整備もしたと思いますが、その運営は、市が行ったのか、病院が行ったのか？(5市町村)

回答 市が行った。掛川方面からは民間と公共が行っているバスがあるが、公共は循環バスで45分に1本ぐらい。袋井方面からは3路線あり、1時間に1本ぐらい。袋井市はこれまで約4千万円の予算であったが、病院対応で1500万円程増加した。

質問 袋井市の中心部からの距離と車での所要時間は？
 回答 中心部から約10kmで時間は20～30分程度。掛川市の中心部からは約3km。

質問 市民の約95%が反対の中で、よくやられたなと思いますが、議会はどういう考えであったか？

回答 合併が17年4月ですが、そのころから医師数が減り始め、次は病院を何とかしなければという意見があった、病院の統合までは考えていなかった。平成18年後半に「病院のあり方検討委員会が統合すべき」という結論を出し、議会の全員協議会に諮った(はかった)。初めは「そこまでやる必要がない」との意見であったが、院長、看護師長などの話を聞く中で平成19年頃から「統合しかない」と変わってきた。

質問 経営形態は色々ありますが、その中でなぜ企業団を選択したのか？

回答 公営企業法を全部適用したことにより、必然的に企業団となった。当時、独立行政法人化というのが強く叫ばれていたが、非公務員型ということと、不良債務全て解消しなければならないという条件があるため、一度に何十億という費用が必要となる。また、民営化という方法もあるが、それをやると市が必要とする医療ができなくなることもある。今まで努力してくれた職員も引き継ぐことができなくなる。

質問 2つの病院を合わせて850床あったものを500床にした経緯は？

回答 初めは病床を減らして良いのかという議論があった。当時の平均在院日数は15～16でしたが、それを急性期として12日を目標にして、それを過ぎたら後方病院に任せるという機能分担を図る必要があるということと、大学の教授などを含めた「建設協議会」で議論された。在院日数が2割減らせば、患者を2割減らせることができる、ということだが当時は大きな反対があった。しかし、現在の病床稼働率は9割ぐらいであり、その位の稼働率でないとう病院経営は成り立たないということで、機能分担が大事である。

質問 医療機器はどのように整備したのか？

回答 医療機器は、閉院した病院から持ってきた機器が5億円で年5千万円を返済している。また、新たに購入した機器が46億円。

県、郡、市、町、村、を
 行政区域
 として
 統合する

(補修済) (1年2町)
「報」の南の山 大塚キャンパス(5)に動く

9年前

2 調査内容 掛川市「希望の丘プラン」の概要について
地域健康医療支援センター「ふくしあ」の概要について

① 視察目的について

団塊の世代が後期高齢者となる近い将来、段階的に地域包括ケアシステムを構築が必要。今後、システム構築のため資源、体制、手法などの検討が進められる。そこで、掛川市の医療、福祉、介護の多職種連携による総合的な支援体制を調査、研究し奥州市らしい地域包括ケアシステムの構築をいかにすることを目的とする。

② 事業内容について

・住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために
掛川市の地域包括ケアシステムは、地域住民が住み慣れた地域で、安心して最期まで尊厳あるその人らしい生活を維持することができるように「総合支援体制の構築」「地域力の向上」「住民性の育成」の3つの柱で成り立っている。
行政だけでも、専門職だけでなく、地域の住民が自ら考え一緒に構築していく。地域とともに成長していくことが、掛川市の目指す地域包括ケアシステムの理念となっている。

③ 概要と内容について

掛川市は、人口114,000人が住んでおり、北の山間部から南の海岸線まで変化に富んだ地形とそれぞれの風土が息づいている。

近年の少子高齢化や医師不足の問題を解決していくため、地域に合わせた支援のあり方を考えて「希望が見えるまち、誰もが住みたくなるまち」を目指して、平成25年に中東遠総合医療センターの開院、旧病院跡地を活用した「希望の丘」プランの推進とともに、多くの住民の願いでもある住み慣れた地域で安心して最後まで暮らし続けられるように医療、保健、福祉、介護を支援する。

そのために地域健康医療支援センター「ふくしあ」を地域拠点として市内5か所に設置している。

「ふくしあ」は在宅医療支援、住宅介護支援、生活支援、予防支援を四つの柱とし、支援を充実していくため様々な「専門職や地域活動と連携」して在宅生活を総合的に支援していく。

また、在宅支援対象を介護や医療だけに限らず、その人の抱える経済面や家庭環境の問題なども含め解決へと導いている。

多職種の皆さんとの連携により情報を共有する事で、複雑な問題を抱えているケースや制度のすき間で、支援の届きにくいケースにも的確に支援を行っている。事務室をワンフロアにすることで、多職種間の連携が図られワンストップで相談事への対応を可能としている。

「ふくしあ」の基本的な構成団体は、4団体です。

- ✓ 総合相談、各種制度運用、全体のコーディネート役割を持つ行政
- ✓ 高齢者の総合支援を行う地域包括支援センター
- ✓ 地域の育成や見守りネットワークの構築を行っている社会福祉協議会
- ✓ 在宅医療を支える訪問看護ステーション

様々な専門職が5つの「ふくしあ」で活動していて官民併せて約100名のス

相互連携
相互連携

スタッフが活動している。また、民間のノウハウと行政の力を合わせて活動している官民の総合力である。

「ふくしあ」の5つの特徴として

- 1 専門職による多職種の連携。
- 2 事務室のワンフロア化により多職種連携の促進。
- 3 訪問をして相談を受ける、アウトリーチを活かした活動。
- 4 縦割りの意識を変え、行政各課や多くの関係機関と連携を図っていく垣根のない支援。
- 5 健康面だけではなく、生活面に関しても予防的視点からの取り組み。

※アウトリーチ（福祉）：支援が必要であるにも関わらず届いていない人に対して、行政や支援機関などが積極的に働きかけて情報、支援を届けるプロセス。

おとろく
おとろく
おとろく

③ 所管

みどりネット

・高齢化が進むなか在宅支援を含めた総合的な医療、介護の相談がしやすく、また多職種の連携を充実させた拠点を整備させて行くこと、そして、アウトリーチを積極的に行うなど、支援体制を整えていくことが重要と考える。

・掛川市では「住み慣れた地域で最期まで安心して生活できるための体制整備」とあるように、全体像をイメージしてから個々の体制整備に取り組んでいる。このような総合イメージこそ、本来のビジョンに感じる。

・住み慣れた地域で安心して最期まで生活できるための地域包括ケアシステムを構築するため、次の検討が必要と考える。

エリア
5拠点
1区2町
おとろく
おとろく

ア 地域ケアシステムを高年齢者への対応のみではなく、医療、保健、福祉、介護全体を福祉ととらえて、赤ちゃんから高齢者まで対応する体制が可能か。

イ 多様な相談に応える体制を整備するため、行政、社協、訪問看護、現在の包括支援センターのワンフロア化が可能か。

ウ 地域包括支援センターは、市直営とし市の施設などで必要数確保できるか。

エ 人員確保ができるか。120%

・公助だけでなく自助や共助で、市民は「ふくしあ」を身近に感じて利用している。様々なところから情報が集まってくるのは、地域とともに活動することで得た「良いサイクル」といえる。まさに、協働による地域包括ケアシステムの構築である。

おとろく
5年計画

・旧市立病院跡地に医療、保健、福祉、介護、障がい児教育を集結させた「希望の丘」は、これから発生する跡地利用に参考とすべき事例である。

人材育成
多職種連携

? 5つの5拠点人数
みどりネット
2022年1月～2027年

おとろく
長野

政務活動費 支出整理票			整理番号	04 - 01
			支出整理日	平成 31 年 04 月 19 日
令和01年度	議員名	中西 秀俊	支出項目	資料購入費

金額	3,180	円
----	-------	---

使途：「東経連月報」購読料（2019年4月～2020年3月）

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	購読料	H31-04-19	3,180		3,180
2					0
3					0
4					0
5					0
6					0
7					0
8					0
9					0
10					0
合 計			3,180	0	A 3,180
按分の内容				按分割合	B
按分後対象支出額（A×B（按分がない場合はA再掲））					C 3,180

備考

領収書貼付欄（貼りきれない等の場合は裏面又は別紙に貼付して差し支えないこと）



お取引内容		店機番	お取引日
お振込		136-72	31-04-19
銀行番号	取引店	口座番号	
取扱番号	お取扱金額		硬貨合計
9697	000	001	000
お取引時刻	お取引金額		手数料
10:28	¥3,180		¥540
お取引後残高			釣銭
			¥1,280

振込金受領書
 七十七銀行
 本店営業部
 普通 NO. 123391
 受取人 シヤ.トウホクケイサイレン 様
 依頼人 ナカニシ ヒテトシ 様
 連絡先 0197-37-2226
 受付番号0000000000000004

▼裏面の説明をご覧ください。

請 求 書

2019年4月2日

中西 秀俊 様

金 3,180 円也

【明細】本体価格： 2,400 (¥ 200 × 1部 × 12ヶ月)

送 料： 780 (¥ 65 × 1部 × 12ヶ月)

2019年4月から2020年3月まで

ただし、「東経連月報」購読料として上記のとおりご請求申しあげます。

仙台市青葉区中央2-9-10

(一社)東北経済連合会
会長 海輪 誠



お支払いは、5月31日までに下記の口座へお振込下さいますようお願い申しあげます。
なお、恐れ入りますが振込手数料はご負担願います。

◆七十七銀行本店・普通預金 加付 印
口座名義 (一社)東北経済連合会 会長 海輪 誠
口座番号 0123391

【お問い合わせ先】 (一社)東北経済連合会 総務企画グループ 高橋 萌衣

TEL 022-224-1033 FAX 022-262-7062

政務活動費 支出整理票			整理番号	04 - 02
			支出整理日	令和 01 年 12 月 05 日
令和01年度	議員名	中西 秀俊	支出項目	資料購入費

金額	2,750	円
----	-------	---

使途：書籍代：議会改革への挑戦 会津若松市議会の軌跡

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	書籍代	R01-12-05	2,750		2,750
2					0
3					0
4					0
5					0
6					0
7					0
8					0
9					0
10					0
合 計			2,750	0	A 2,750
按分の内容				按分割合	B
按分後対象支出額 (A × B ((按分がない場合はA再掲)))					C 2,750

備考	

領収書貼付欄 (貼りきれない等の場合は裏面又は別紙に貼付して差し支えないこと)

政務活動費 支出整理票			整理番号	05 - 01
			支出整理日	令和 01 年 12 月 27 日
令和01年度	議員名	中西 秀俊	支出項目	広報費

金額	75,025	円
----	--------	---

使途：「奥和会だより」印刷代、郵送料

No.	支出の明細	支出日	領収書金額	対象外	対象支出額
1	印刷代	R01-12-27	44,000		44,000
2	郵送料	R01-12-26	31,025		31,025
3					0
4					0
5					0
6					0
7					0
8					0
9					0
10					0
合 計			75,025	0	A 75,025
按分の内容				按分割合	B
按分後対象支出額 (A × B (按分がない場合はA再掲))					C 75,025

備考

領収書貼付欄 (貼りきれない等の場合は裏面又は別紙に貼付して差し支えないこと)

領 収 証

中西秀俊 様

令和 1 年 12 月 27 日

種 別	金 額	摘 要
入金		
現金/小切手		
約 手		
内 相 殺		
訳 振 込		
消費 税		

金額 千 百 拾 万 千 百 拾 円
9 4 4 0 0 0

但し印刷代 500部
上記の金額有難く領収致しました

あべ印刷株式会社
代表取締役 阿部 由起男
〒03-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字東
TEL (0197) 24-8302
FAX (0197) 24-8330

この領収証で係印の無いもの並びに金額を訂正してあるものは無効です。

領収書
中西秀俊 様

[別納引受] 区内特別基 (定) @73	18.0g 425通	¥31,025
小 計		¥31,025
郵便物引受合計通数	425通	
課税計 (10%) (内消費税等)		¥31,025
非課税計		¥2,820
合計		¥0
お預り金額		¥31,025

印刷は 500部
郵送は 425部
35部は
直接手渡

〒100-8792 日本郵便株式会社
東京都千代田区大手町2-3-1
取扱日時：2019年12月26日 14:57
担当：佐藤 智子
発行No. 191226A5815 端N46箱01
連絡先：野手崎郵便局
TEL:0197-37-2020

郵便局からのお知らせ

**2019年10月1日(火)から
郵便料金などが変わりました。**

消費税率の改定に伴い、郵便料金などを
変更させていただきました。
詳しくは、日本郵便株式会社Webサイトを
ご覧いただくか、お近くの郵便局にお尋ねください。

郵便 様式

No.6



あいわかり 奥和会だより

【発行責任者】奥和会会長 渡辺 忠 【発行日】令和元年12月27日

挨拶



奥州市議会会長派
奥和会 会長
渡辺 忠

市民の皆様には、日頃より奥和会に對しまして御指導、御愛顧を賜わり誠にありがとうございます。さて今年には台風等の災害が発生し、被災者の皆さまには心より御見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。昨今の災害は、いつどこで発生するかも含め今後も大



奥州市議会 議長
小野寺 隆夫

この度、奥和会機関紙「奥和会だより」第六号の発刊にあたり、拙稿ながら一文寄せさせていただきます。

奥州市議会では、現在議会改革の取り組みを進めています。その第一は、市民に開かれた議会の実現です。情報公開はもとより、より市民に親しまれる議会を目指しています。議会の役割として、行政監視や牽制機能の役割があります。しかしこれだけに固執してしまうと、とかく行政の上げ足取りだけに神経を使ってしまう危険性があります。議会は二元代表制の一翼を

「議会改革の旗手として」

大きな課題であると思っております。こういう時こそ、ラグビーチームで話題になりました。ワンチームになって皆んなで心を合わせ対策を講じることが課題であり、安全、安心の街づくりだと思います。我々奥州市議会会派、奥和会、としましてはワンチームの気持でもってお互いに力を合わせ、前に進む新しい年にしたいと思っております。今後とも、市民の皆様の御指導をお願い申し上げます。挨拶いたします。

担う存在です。市政に対して積極的に政策提言や政策立案をしていくべき機関でもあります。今年議会では、三本の政策提言を市長に提出しました。政策提言をまとめるためには、多くの議員が合意することが必要です。意見の違いを強調することが議会の目的ではありません。市民福祉の向上に資するために、まずは合意できる政策の実現を果たしていくのが議会の務めであると認識します。議会内第一会派である奥和会様におかれましては、その先頭で立て改革を推し進めていただきたいと思っております。奥和会をますますのご活躍をご祈念いたします。

「一般質問の状況」

二〇一九年開催された四回の定例議会における、奥和会メンバー一般質問の状況

2月定例議会

菅原 由和議員

- 都市計画について
- カヌーによる地域振興について

高橋 浩議員

- 小中学校の伝承活動等について
- 小中学校におけるトイレ環境の整備について
- 小中学校教職員の増員について

6月定例議会

渡辺 忠議員

- I・L・C誘致実現について
- 農業振興ビジョンの取組みについて

藤田 慶則議員

- 所有者不明土地について
- おうしゅう地産地消わくわく条例の取組みについて

菅原 由和議員

- 人口プロジェクトについて
- 奥州宇宙遊学館と国立天文台について

千葉 和彦議員

- 六次産業化の支援のあり方について（答弁者：市長）
- 災害時受援体制の整備について

9月定例議会

高橋 浩議員

- 森林環境譲与税について

12月定例議会

藤田 慶則議員

- ふるさと納税について
- 歴史遺産について
- 中西 秀俊議員
- 公共施設等総合管理計画について

千葉 和彦議員

- 梁川バイパスの整備に伴う市の対応について
- 農業担い手支援策について

小野寺 満議員

- 福祉対策について



渡辺 忠 (昭和三十九年出身)

今後の市の発展の為に!! 先般、病院の再編、統合の検討が必要だと厚労省が公表し、公立公的病院リストが波紋を広げています。

今後高齢化が進む上で医療や介護のニーズは増える一方で医師や看護士など医療現場で働く人材が不足していることも大きな課題となっている。

水沢病院の新築構想も色々と課題となっているが、市の将来を考える時に安心して暮らせる為にも必要不可欠である。今後の人口減少を考える時こそ、医療体制をしっかりと確保されることも人口増加に関係してくると思う。更に、地域医療、公的病院のあり方は我々住民が自ら決めていくことだと思ふ。

もちろん大事なことは、地域医療は民間病院の機能と合わせて考えるべきであり、一体となって奥州市の医療の方向性を決めていく時だと思ふ。議会も当局と一体となり早い時期に医療体制を構築することだと思ふ。

又、奥州市には抱えている課題も沢山ある中で、①空き家対策、②農業の人手不足、③人口減少問題、④福祉事業の促進等、重要な課題に取り組む施策の展開が強く求められている。

更にはI・L・C誘致問題も大きな課題であります。先般仙台で各国から関係者が出席され誘致活動を中心に今後のまちづくりについてのセミナーが開催されました。年明けには、国として何らかの進展がみられるとの話題はありました。

が、いずれ誘致にむけての活動は更に深いものがあると期待するところでもあります。

今後とも課題解決をしながら、人口減少に対策をしっかりと打ち出し、若い人達が地方を見る目が違ってくる住民自治の確保が今、強く求められていることに注目し、対応を考えた施策を実現していきたい。



平田 昌基 (昭和三十九年出身)

令和の時代 昭和は戦争の時代、平成は災害の時代ともいわれました。そして、

令和の幕開けは、台風一九号による豪雨災害。全国で九三人が亡くなり、三人が行方不明。堤防決壊は七一河川・一四〇か所。土砂災害は二〇都府県で八二二件。住宅被害は八万七千余りともいわれています。亡くなられた皆様、被害にあわれた皆様にはご冥福をお祈りし、お見舞いを申し上げます。

奥州市においても床下浸水・市道の被害・農作物・農業施設等に被害を受け、避難された方々は全体で七四名でした。我が家においても、屋敷林が倒されました。屋敷林は散居集落のシンボルでもあり、昔は防風林の役目を果たしたのだから、台風直後には、屋敷林を切る方々も増えたようでした。

稲作においては、温暖化による出穂期から登熟期における高温と地力の低下により乳心拍米が多発し、等級が低下しました。

新築を予定していた奥州南中学校給食センター(仮称)の建設地が洪水浸水想定区域内にあり建設場所が見直しされます。台風、ゲリラ豪雨等異常気象によりまちづくり・コメ作りにも影響があることと思ひます。天の恵み・天の災い、令和はどんな時代となるのだろうか……。



中西 秀俊 (江刺市出身)

子育て世代が住みたいまちを目指して 高齢者を考えると同時に、新しい世代のことも視野に入れないと、日本は衰退してしまうといえます。

人口構造で逆ピラミッド化からくる社会バランスの不安定さは、すでに目の前にきている問題です。これまで、小中学校のすし詰め教室、高度成長期と都市の過密化、世帯数増加からの住宅問題、年金問題……。

一方、若い世代の都市集中には、地方での過疎化問題が伴い、世代別人口の不均衡は高度成長期にすでに始まっていたのです。結婚問題や過疎化による小中学校の統廃合、さびれた商店街、第一次産業の後継者不足問題は、全国各地で見られる課題です。

このような背景からしだいに、次の世代に関心が集まりますが、核家族化や子どもを産まなくなつた若い層に、打つ手が定まらないともいえます。危機感がなく、余りにも目を向けてこなかったからではないでしょうか。

提案として、総合母子保健センターがあり、お産を取り巻く環境、妊娠から子育てまで切れ目のないサポート、産科医の招聘にかかわる課題から産後ケア施設の整備などの後押しが必要に思ひます。

子育て世代が不安なく子どもを産み、育てられる社会をつくりあげていくことが、特効薬のない少子化対策の、ひとつの突破口になってくれることを願っています。

「チーム議会」として 更なる改革を 今、全国の地方議会では、議会の改革の取り組みが積極的に行われています。これは、二〇〇〇年に施行された地方分権一括法や地方自治法の改正により、地方主権が本格化したことに伴い、地域経営に貢献する議会としての役割が飛躍的に高まったことによるものです。



菅原 由紀博 (水沢大鐘町出身)

議会の改革の第一の目的は、市民に開かれた議会を実現し、住民福祉の向上に寄与することであり、議会の仕組みを変え、機能強化や

活性化を図っていくことであります。

この間、奥州市議会でも議会改革検討委員会等において様々な検討が進められ、情報発信の拡大や政策提言等の取り組みが行われてきました。六月に発表された早稲田大学マニフェスト研究所の二〇一八年度議会改革度ランキングでは、全国六八位と前年度の三九六位から大きく順位を伸ばし、着実にその成果が表れてきているものと思っております。

これまでの議会の役割は、行政のチェック機能・監視役と言われてきました。しかし、これからは地域課題を解決する議会、住民福祉の向上に寄与する議会となり、議員単体の議会活動ではなく議員総体の議会活動が重要で、議員事務局職員、市民が一体となった総力戦だと言われております。

ラグビー日本代表と同様「ONE TEAM（ワンチーム）」となり、正に「チーム議会」として議会の最高規範である議会基本条例の検証と見直しをはじめ、政策サイクルの構築等の改革を更に進め、山積する市政課題に果敢に立ち向かって参りたいと強く決意をしております次第です。



千葉 和彦 (水沢買城出身)

「初心忘れるべからず」

時代は平成から令和に年号が変わり新たな時代を迎えました。平成の三〇年間はバブル経済崩壊等による経済の低迷からはじまり、人口減少や少子高齢化といった問題が顕在化し、更には顕発する災害やIT社会の進展等、私たちの生活環境が大きく変わっていった時代でした。新たな令和という時代が、私たちに与り本当に良い時代の幕開けになれば良いと思っております。

さて、一昨年議員に初当選し一期目の任期も早二年目が経とうとしております。この間、地域の声を市政に反映し地域の課題解決をしていくという姿勢で議員活動をしてまいりました。議会では産業経済常任委員会に所属し、特に奥州市の基幹産業である農業について、この一年間様々な農政課題を学びながら課題解決に向け取組んで参りました。お陰様で、奥和会では経験豊富な諸先輩が多く、様々な市政課題について日々学ぶことができ、議員活動に大きく役

立っております。

現在、奥州市は少子高齢化・人口減少や公共施設の再編等、多くの市政課題を抱えておりますが、一〇年後・二〇年後の住みよい奥州市をつくるため「初心忘れるべからず」を胸に、市民皆様からいただくお一人おひとりの声を大切に、その課題解決に向けて丁寧に向き合い、まじめに取組んで参ります。



高橋 浩 (上柳伊手出身)

賑わいの復活

議員生活も二年を迎え、忙しく活動して居ます。議会では、建設環境常任委員を始め四つの委員会、一連盟に所属するほか、奥州金ヶ崎行政事務組合議員として、用水供給事業、衛生センター・消防運営等に携わり勉強しております。

二月定例会では、学校の伝承活動と職員体制、八月は森林譲与税を、引き続き質問しました。今後の奥州市は少子高齢化を迎え、人口増加は厳しいと捉えます。増えなければ人を呼込む事、色々な仕掛けを考え交流人口を増やし、活性

化を図る事が必要と考えます。当前目指す第二期奥州市障がい者計画を策定し、平成三〇年度から平成三七年度まで八年間、この計画に基づき推進中です。

しかし、今年開催した二回の市民と議員の懇談会では、「仲間づくり差別のない地域づくり」、「障がいのある人でも働ける環境づくり」、「障がいのある人に対応した医療体制・介護体制の構築」など多くの意見が市民の皆さんから出されました。

現在、障がいのある人の雇用・就労の窓口は、公共職業安定所や胆江障害者就業・生活支援センターをはじめ、関係機関団体が連携を図り行っておりますが、特に、就労支援事業施設に入所している知的障がい入所者の就業の現状は、働く職場がなかなか見つからない状況にあります。



小野寺 徹 (水沢買城出身)

誰もが等しく暮らせる奥州市に

奥州市は、障がいのある人もない人も誰もが等しく家庭や住み慣れた地域で生活し、お互いに関わりとして尊重し合えるまちづくりを

目指し、第二期奥州市障がい者計画を策定し、平成三〇年度から平成三七年度まで八年間、この計画に基づき推進中です。

「障がいのある人でも働ける環境づくり」、「障がいのある人に対応した医療体制・介護体制の構築」など多くの意見が市民の皆さんから出されました。

現在、障がいのある人の雇用・就労の窓口は、公共職業安定所や胆江障害者就業・生活支援センターをはじめ、関係機関団体が連携を図り行っておりますが、特に、就労支援事業施設に入所している知的障がい入所者の就業の現状は、働く職場がなかなか見つからない状況にあります。

そこで私は、「障がい者就労斡旋センター」設置をし、雇用の拡大と就労による障がいのある人の自立を促進すべきと考えます。

奥州市は、市民に対し様々な施策を講じ、推進する必要があると思っております。

行政視察報告

令和元年八月七日(水)～九日(金)の三日間の日程で、奥和会所属議員七名に、小野寺隆夫議長を加えた八名にて、先進事例への取組等について行政視察を実施致しました。

八月七日(木) 兵庫県佐用郡佐用町 「播磨科学公園都市」

Spring 大型放射光施設。電子を加速・貯蔵するための加速器群と発生した放射光を利用するための実験施設見学。



八月八日(木) 兵庫県川西市 (人口一五三,七二八人)

- ①(仮称)市立総合医療センター整備事業
- ②市立病院と民間病院の統合
- ③指定管理者制度の導入



八月九日(金) 和歌山県田辺市 (人口七三,一三三人)

- 秋津野ガルテン
(農業法人株式会社安芸津野)
- 地域づくりと六次産業化
(グリーンツーリズムによる都市と農村の交流)



編集後記

全国市議会議長会より「議員表彰」が行われ、奥和会から藤田慶則議員、中西秀俊議員が、議員一五年以上の表彰を受け六月二十六日、六月定例会において表彰状が伝達されました。

藤田議員は胆沢議会、中西議員は江刺議会と奥州市合併前から議員を続けられ、広域合併等々を経て、永きに渡り議事を牽引して参りました、その御苦労に敬意を表すると共に、益々の御活躍を御期待申し上げます。

平成から令和と元号が変わり、新たな時代を迎え、奥和会も益々張切って居ります。奥和会だよりは、第六号の発行となりました、今後も会派の活動等紹介して参りますので宜しく願います。
(高橋 浩)

奥和会メンバー

- 会長 渡辺 忠(胆沢)
- 副会長 藤田 慶則(胆沢)
- 副会長 中西 秀俊(江刺)
- 幹事長 菅原 由和(水沢)
- 会計 千葉 和彦(水沢)
- 事務局 高橋 浩(江刺)
- 監事 小野寺 満(水沢)